

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	“笑顔を決やさず、思いやりを持って接し、自分らしい希望のもてる生活が送れるよう応援します。”と職員全員で考えた事業所理念を掲げている。		「自分らしい」部分について利用者様一人一人と向き合い把握していく。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	目の届くところに理念を掲示し、出勤時に参照するようにしている。 また、ミーティングの際にも周知徹底を図っている。		職員全員で作上げた理念で共有できている。 日々、笑顔や思いやりを持って対応し、理念の実践に取り組んでいる。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	グループホームの玄関先に掲示し、訪問された方の目に付くようにしている。運営推進会議で理念の説明をさせて頂いた。		再度、運営推進会議で紹介し地域の方やご家族様への理解を深めていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	玄関前で園芸や茶話会を開いたり、散歩で市民センターに立ち寄りして顔見知りになるよう努めている。夏祭り等のイベントに参加して頂いている。		茶話会や園芸などの日々のレクリエーションの紹介を行い、参加していただきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	桜交流会、敬老会、文化祭等の市民センターのイベントに参加させていただいている。また、地域の小学生ボランティアとの交流を図ることができた。		地元の方々との交流の機会を増やしていきたい。
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない。		認知症の予防や認知症についての勉強会を開催して地域の方に参加していただきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	実施する意義について職員に資料を配布し勉強会を行っている。1回目の評価なので今後は活かしていくようにしたいと考えている。		評価を活かして、改善に向けて話し合いを持って、取り組んでいきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告や入居者状況、職員状況等の報告を行い、ご意見を頂いている。		今回の評価や改善すべき課題について報告していく。また、改善の取り組みについての経過もお伝えしていき、ご意見を頂きたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	夏祭りや餅つき等のイベントに参加していただき協力いただいている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	後見センターとの関わりがあったので学ぶ機会が多かった。制度について資料を準備している。		個々の必要性について考慮していく。権利擁護に関する外部の研修を受け知識の習得を図る。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を開催している。職員の自己チェックを実施し、虐待のないケアをしている。		定期的な内部研修を実施する。職員が外部研修へ参加する機会をつくる。
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書と重要事項の説明を行いながら、その都度、疑問点や不安な点を伺い話し合いをしている。解約の際も話し合いを十分にやり納得を図っている。		ご家族様が何でも相談出来るよう、信頼関係を築く機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や管理者への訴えは常に伺っている。また、担当の利用者様の困りごと等の相談を各職員がマンツーマンで伺うようにしている。		介護サービス相談員の依頼を行い、外部の方に相談する機会を提供する。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族様の面会時に管理者や担当職員から報告している。また、介護記録等も見てくださるよう促している。緊急の場合は電話連絡を行っている。		定期的に状況報告の手紙等を作成する。職員の異動等については運営推進会議で報告し、不参加の家族に資料を渡し説明を行う。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口を決めている。また、意見箱の設置をしている。面会時には相談等のし易い雰囲気づくりに努め、管理者や担当者がご家族様と話す機会をつくっている。		意見、不満、苦情に対するの早急な対応に努めていく。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングを開催し、様々な提案が出来るようにしている。また、日頃から意見の出し易い関係作りに努めている。		日頃から各職員とのコミュニケーションを密に行い、提案や意見等を出し易い関係となる。毎月の介護ミーティングを開催していく。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員ミーティングで必要な時間帯の検討を行っている。それにより休憩時間等を変更して対応できるよう努めている。		行事等が安全に実施できるよう柔軟な対応をしていくためのミーティングを開催する。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動については、事前にご利用者様やご家族様にお知らせし、異動後も顔を合わせる機会を持っている。		職員の異動や退職を出来るだけ早くお知らせし、新しい担当職員との信頼関係が築けるように支援していく。
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されているようにしている。	採用基準は性別や年齢に関係なく、福祉の仕事に対する意欲を重視している。事業所で働く職員については、担当制を導入し能力を発揮できるようにしている。また、外部の研修を受ける機会をつくっている。		今後も実施していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	実施できていない。		認知症に関する勉強会や研修に参加する機会はあるが、人権教育の取り組みがないので考慮していく。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修資料や講演会の資料を回覧し、参加を促している。		内部研修を充実していきたい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通じて情報交換や交流ができています。		地域医療連携ネットワークへの参加。 福祉関連事業所と研修会を通じて交流していく。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	実施されていない。		人員配置及び運営管理について整備し、就業時間内の業務改善を検討する。 職員の「心のケア」の専門員を導入する。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	実施されていない。		職員のスキルアップを図る為、職場外への研修を強化していく。 個々の能力に応じた評価を具体化する。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時に話しやすい環境の中で不安や困り事、意向について傾聴させて頂いている。		ご家族様と話すことが多く、もっとご本人様の意思を引き出せるような時間をつくり、気持ちを受け止めていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接の時以外にも連絡を取り合い不安や困り事、意向について受け止める努力をしている。		初期に適切なアドバイスができるよう職員の知識や技術の向上を図りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の内容をよく傾聴させて頂き、適切なサービスの利用を助言できるよう努めている。		グループホームの利用だけに捉われず他のサービスも考慮して相談を受けている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	デイやショートステイを利用している時に、職員や管理者がこまめに訪問し声かけを行うことで、情報収集に努めながら顔なじみとなっている。		ご家族様に協力を頂きながら短時間から慣れていただけるよう話し合いをしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個別に対応していくことで信頼関係を築くよう努めている。		高齢の方の知恵をお借りして掃除や洗濯を行っている。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	こま目に情報を共有する話し合いを行い、ご家族様に協力を得ている。		様々な行事に参加して頂けるように案内をする。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日頃の様子をお伝えしたり、介護記録をご覧頂き理解を深める機会を持っていただく。面会や電話を自由にしていただき家族と良好な関係が保てるよう支援している。		ご家族様と一緒に過ごす機会を大切にさせていただけるようお手伝いをさせていただく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の友人の方に面会に来ていただいたり、電話をやり取りして頂けるよう努めている。		ご本人様のこだわっている場所や人の把握に努めて支援していく。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席を検討したり、役割りを持ってより良い関係となるよう支援している。		ご本人様が好きな時に参加できるようレクの提供を行い、参加に無理強いしないようにしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	定期的にご連絡させていただき、近況を伺うようにしている。		グループホームの行事等の案内をさせていただく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>ご家族様の協力を得ながら、ご本人様の希望に沿うよう計画書を作成している。</p>	<p>日頃のケアから寄り添い、ちょっとした表情やつぶやきも見逃さないように記録していく。</p>
36	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>ご家族様の協力を得ながら環境を整え、馴染みの物と生活できるよう支援している。</p> <p>日頃のケアで分かったことについては、介護記録に残し介護ミーティングや担当者会議で検討している。</p>	<p>ご本人様から得た情報を大切に馴染みの暮らし方ができるように応援していく。</p>
37	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>健康チェック表、介護記録、介護日誌に記載し総合的に把握できるよう努めている。また、出勤者は目を通して状況把握してから職務につくようにしている。</p>	<p>ご本人様のペースでゆったりと過ごせているか、楽しく生活できているかも視点に入れて記録していく。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族様とご本人様の意向について常日頃から会話の中で確認している。主治医と直接話す機会を持ち意見やアドバイスを取り入れている。担当の職員を決め一人一人の細かい所まで目が行き届くように配慮している。</p>	<p>本人、家族、担当職員、ケアマネ、医師等が一度に集まりカンファレンスできるような工夫をしていく。</p>
39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の見直しとしているが、ご本人様の新たな希望が伺えたり、状況が変わったりした場合には速やかに見直しを行っている。</p>	<p>介護記録や日誌等からモニタリングを毎月実施して介護計画書の見直しや継続を検討していく。</p>
40	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録、介護日誌をモニタリングに活かしている。</p>	<p>介護記録に日頃ケアしている者としての気づきを記録している。客観的な記録だけでなく感じたことや主観も記録に入れる。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日頃からご本人様の想いに向き合い、ご家族様にお伝えして出来る限り協力が得られるよう努めている。(正月を自宅で迎えたい等の希望を手紙や訪問時に伝えたりする。)その際、ご家族様の意向や希望についても傾聴し、調整を図っている。		日頃のケアの中でご本人様の想いや希望を汲み取り実現するよう応援したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方の協力でイベントに踊りや歌の披露をして頂いている。		地域の方も参加していただき、火災や災害に備えての活動に取り組んでいきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施できていない。		他のサービス利用も考慮した上でサービス計画書の作成に取り組む。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働が運営推進会議の時だけなので今後は相談者や入居者が相談できるように支援していく。		地域包括支援センターと連携を図っていく。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援している。また、受診の付き添いも行い定期的に通えるようにしている。		今後も主治医とこまめに情報共有を実施して、急変時の対応についても繰り返し確認していく。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	支援経過記録や介護サマリーを作成し医師と連携が図れるよう努めている。また、受診の付き添いを行い、質問や相談を行っている。		主治医の協力を頂きながら、ご家族様と相談し、ご本人様がより良い状態となるよう支援していく。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医に電話で状態の報告を行い、早期に治療ができるように指示を仰いでいる。併設のデイや特養の看護師による協力を得ている。		今後も身近な併設施設の看護職員にアドバイスをさせていただきながら日常の健康管理に努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーを作成して情報を伝えている。面会に行き、主治医や看護師との連携を図っている。また、ご家族様に連絡し一緒に面会に行く調整を行い、主治医と話し合いをしている。		認知症症状が悪化したり、ADLの低下がないようご家族様、Drと連携し、状態の把握に努め、出来る限り早期退院に向けて話し合う機会をつくっている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	主治医を含め、ご家族様と話し合う機会を設け方針を決めている。		利用者の状況の変化に合わせ、その都度方針を話し合う。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主治医やご家族様と話し合いを行い方針を決め、介護ミーティング等で職員で情報を共有するようにしている。		医療連携体制を構築して様々な状態となっても馴染みある環境の中で生活していけるよう支援したい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	アセスメントや介護サマリーを作成して他職種に情報提供している。 環境の変化に対するご本人様の気持ちを受け止め安心できるように努め、居場所が変わっても訪問を継続している。		ご本人様の情報を詳しく伝え、安心、安全に生活が送れるよう支援していく。また、訪問を継続していく。
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳ある暮らしが出来るよう配慮している。記録に関しても利用者様主体を重視している。		職員が認知症実践者研修や講演を聞く機会を増やし、正しい認知症介護が習得できるようにしていく。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	こちらから決め付けることのないよう、一つ一つの事に選択方式等で自己決定を促している。(ご本人様の有する力で選択できるよう支援している。)		好みや気分に合わせて出来るよう、飲み物も種類を豊富に揃えるようにしている。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時等にどのような事がしたいか希望が伺えるような話題づくりを行い、希望に沿って戸外へ出たり園芸をしたりと工夫している。		家で生活していた時と同じように生活していただける様に柔軟な対応をしていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	洋服はそれぞれ好きな物を選んで着て頂いている。(季節にあった洋服選びが出来るように声かけや付き添いを行っている。)好きな髪の色や意向を伺い、理美容師に依頼している。		行き着けや希望の美容院等があれば付き添いを行いたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	フルーツ等の簡単な準備と盛り付け、テーブルセッティング、後片付けは職員と一緒にされる方もいらっしゃる。		デザートだけでなく、料理好きな方と味噌汁や酢の物などの一品から一緒に作っていききたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	晩酌の準備を行い、楽しむことができるようにしている。おやつについても食べたい物の希望を伺っている。ご家族様に依頼し持参して頂く事もある。職員が付き添いスーパーへ購入に行くこともある。		病気のある方も、主治医やご家族様と相談しながら、ご本人様の好きな物が食べられるように調整したい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを行い、排泄リズムの把握に努め、タイミングよくトイレへの声かけや誘導を行うようにしている。紙おむつをテープ止め式は使わず、尿量にあったパッドを使用し、自然な動きを妨げないようにしている。		快適に過ごしていただけるよう排泄ケアは継続していききたい。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に3回は入浴していただけるように声かけや誘導をしている。タイミングを見て気分の良い時に入れるように支援している。		午前中からお誘いしているが、希望があれば自由な時間(夜間を除く)にゆっくりと入浴していただきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、夜間問わず自由に居室～リビングに移動していただき家と同じように過ごして頂いている。また、座敷でくつろぐよう促すこともある。		ご本人様に合わせた環境や温度の管理を行い、自由に安心して過ごせるように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣向に合ったレクリエーションの提供を心がけている。日曜大工の得意な方も入居され活動の幅が広がっている。		役割を持つことで生活意欲が向上するよう、計画書に盛り込み、少しずつ出来る様に支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かっているお金の中から買い物が出る様に支援している。小額を持っていただき管理していただく。 (紛失したとトラブルになることあり。)		ご本人様の必要な物品は職員付き添いの下、ご自身で購入出来るようにし、買い物リハビリを通して自信を持って生活できるように支援する。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1日に一回は戸外へ出るよう声かけし、希望の時間に散歩等の付き添いをしている。		急なお出かけに対応できるよう車を確保したい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コンサートや観劇に行く機会を提供した。(職員のマンツーマン対応で安全に配慮した。) 墓参りを希望されたのでご家族様と話し合い日程を調整した。		各利用者様の行きたい所を把握して出かける機会を提供していく。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家にいる時と同じように好きな時に電話や手紙ができるようにしている。希望があれば職員が代理ですることもある。		今後も自由にご家族様や友人の方と電話ができるように支援したい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に尋ねて下さるようお声かけをしている。また、お見えになられた時は、ご本人様の居室や居間でゆっくり過ごしていただけるよう椅子等の準備をしている。		今後も継続してゆっくりと気を遣わず過ごせる環境を提供していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行い、日頃から身体拘束をしないようにケアしている。 身体拘束の対象になる具体的な行為の職員の認識チェックをアンケート式で実施した。		外部研修を含め、定期的に勉強する機会を作っていく。 身体拘束をしないケアを実践していく。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	付き添いを行い戸外へ出かけられるように支援している。人手がなく付き添いできない時は安全のために玄関に鍵を欠けることもある。 玄関ドアにベルを取り付けて音で出入りに気づくようにしている。		「後で一緒に行きましょう」とお待たせすることがあるので、なるべくすぐに付き添いができるような工夫をしていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在の確認を常に行っている。夜間は居室のドアを閉めて一時間に1度は巡回している。		プライバシーの配慮に努めながら安全を確保していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ等、個人で管理出来る方に関してはしていただいていたが、収集癖のある方が持ち歩いていたのでお預かりするようにしている。必要時は手渡ししている。		必要時には手渡しするようにし、安全の為、職員で管理していく。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	リスクの高い事柄については、計画書に盛り込み実践している。 また、事故に繋がる危険があった場合は「ヒヤリ、ハット」を作成し、事故防止委員会で対策について検討している。		勉強会や研修参加を行い、職員の知識や技術の向上を図る。 利用者様個人別にリスクを検討して対策を考える。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	内外研修に参加し、職員の知識を高めるよう努めている。		知識だけではなく、早々に訓練する機会をつくりたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中、夜間を想定した、災害時の避難訓練に地域の方に参加していただく様依頼する必要がある。また、職員全員が参加できるようにする。		地域の方の協力を得て、災害時の訓練を実施していく。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	話し合いを実施している。その上で個々のリスクに合わせた環境づくりに努めている。(センサーマットの使用、病気に關しては、主治医を交えての話し合いを行い、急変時の対応策を決めている。)		細かい事でもご本人様やご家族様と話し合う場を持ち、安全に生活できるように支援していく。
78				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の健康チェックを記録し、職員間で確認をしている。また、少しの変化でも、併設の看護師や主治医に相談を必ず行っている。		日中は受診ができるので、すぐに対応ができています。 夜勤者は日中の状態を把握して勤務にあたり、異変時は一人で判断せず管理者と連絡を取り合っている。管理者から状態により事前に指示をしていることもある。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実な服薬管理ができるようにしている。症状の変化や服薬内容等について、申し送り(介護日誌)している。個人カルテに服薬表を入れている。		服薬管理を鍵つきのキャビネットに保管し、誤薬を防ぐよう努めている。朝、昼、夕、眠前の服薬の担当を決めて確実に確認するようにしている。(健康チェック表に記入する。)
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分と運動を勧めている。運動は主に歩行訓練をしている。お茶やコーヒー、紅茶等の嗜好にあったものをコマ目に提供している。腹部マッサージをしたり、暖めるようにしたり排便を促している。		排泄チェックを行っており、三日間便秘の方は申し送りするようにしている。便秘のひどい時は受診している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアの研修を実施している。その時に個人別に口腔ケアの方法について学び、一日4回実践している。義歯の管理は衛生に配慮して職員で行っている。(ご本人様の承諾済みである)		ご利用者様の歯科検診する機会をつくる。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分量のチェックを行い一日のトータルを把握している。足りない方に関しては、ゼリー等を提供するなどの工夫をしている。		個々にあった摂取を勧めるよう、ご家族様や職員間で話し合い、無理強いするのではなく美味しく栄養や水分が摂れるよう支援していく。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	研修を行い、実践に役立てている。清掃時は次亜塩素酸での消毒をしている。利用者様に手洗い消毒、うがいをこま目にして頂いている。職員も介助の都度行っている。外部から来た方にも手洗い、うがいやマスクの着用を依頼している。		今後も研修を定期的に行い感染予防の意識付けを行う。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎回の消毒を実施している。 冷蔵庫に保存している食品の賞味期限を確認して提供している。		賞味期限が確認しやすいように大きく記載する。麦茶等についても二日以上消化しない場合は作り変える。
82				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に季節の花を植えて明るい雰囲気づくりに努めている。		近隣の方も参加していただける茶話会等を開き、親しみを感じて頂けるよう工夫する。また、助言して頂く機会を設ける。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な物は最小限にしているが、居心地の良い空間となるよう花を飾ったりして工夫している。		居間のカーテンで朝陽がまぶしくないようにしたり、居室の障子やロールカーテンで自然な明かりを取り入れながら調整している。
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファのどちらでもくつろげるようにしている。居場所が変わると落ち着かない方も多く、食事の席は椅子に名前を記入して決めている。		席にこだわりのある方に対する配慮を行い、くつろぐことができるよう工夫する。
居心地よく過ごせる居室の配慮				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は和風にこだわり、障子や畳、和天にしている。使い慣れた家具を持ち込んでいただくようにしている。壁も自由に写真を飾ったりできるようにしている。	ご家族様とご本人様と話し合い、ベッド、畳のどちらかは自由に選んでいただいている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房と空気清浄機を各部屋に設備しており、こまめに調整している。リビングに加湿器を設置し、湿度にも配慮している。	外気温と大きく差がでないように調整して季節を感じていただくことも大事にしていきたい。また、衣類も季節感を感じることで調整していただくよう手伝いをさせていただいている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを増やしたりして出来る限り自立歩行できるようにしている。 掃除道具もハタキやモップなど使いやすい物を準備して出来る限り自立に向けて支援している。	家事や役割を通して、自立した生活ができるよう計画書に盛り込んで支援していく。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員の見守りや声かけが十分にできるように努めている。 (休憩時間の工夫や管理者との連携を図る。)	個人に合わせた目印の工夫をしていく。
89	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダ、玄関前で園芸活動ができるようにしている。 洗濯物を干す場だけでなく、戸外にもテーブルをセッティングして 交流する場となるようにしている。	気候の良い日は戸外で茶話会を開いて職員も一緒にゆっくり楽しんでいる。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者様の状態に合わせ寄り添ったケアに力を入れている。落ち着かず不安な時など、行動を制限しないようご本人様の話を伺いながら近隣を散歩するようにしている。
- ・アニマルセラピーがあり、犬と触れ合う場を提供し癒しに取り組んでいる。
- ・併設事業所の看護師や主治医との連携を十分に図りご本人様やご家族様が安心されるよう支援している。